

未来を創る、こどもたち。
未来を育てる、わたしたち。
～未来への責任～

令和5年度

埼玉県学力・学習状況調査の結果 及び結果の活用について

～非認知能力（自己効力感）の向上と「学力の伸び」との関係～

埼玉県学力学習状況調査



タッフで実感 アッフでスマイル

コバトン

令和5年度 埼玉県学力・学習状況調査の概要

実施期間	令和5年5月8日（月）～5月17日（水） PBT（紙を使用した調査） 26市町 令和5年5月8日（月）～5月24日（水） CBT（タブレット端末等を使用した調査） 36市町村												
調査学校数・児童生徒数	県内の公立小・中学校等（さいたま市を除く）に在籍する小学校第4学年から中学校第3学年の全児童生徒 <table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>小学校</td> <td>690校</td> <td>138,647人</td> <td>中学校</td> <td>352校</td> <td>131,985人</td> </tr> <tr> <td>義務教育学校</td> <td>2校</td> <td>342人</td> <td>県立中学校</td> <td>1校</td> <td>231人</td> </tr> </table>	小学校	690校	138,647人	中学校	352校	131,985人	義務教育学校	2校	342人	県立中学校	1校	231人
小学校	690校	138,647人	中学校	352校	131,985人								
義務教育学校	2校	342人	県立中学校	1校	231人								
調査事項	<p>ア 児童生徒に対する調査</p> <p>① 教科に関する調査（出題数は各学年31～36題、出題形式は選択式・短答式） 小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数 中学校第1学年 国語、数学 中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語</p> <p>② 質問調査 学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項（質問数は学年により98～106項目）</p> <p>イ 学校及び市町村教育委員会に対する調査 学校における教育活動並びに学校及び市町村における教育条件の整備等に関する事項</p>												
特長	<p>学力の伸び（経年変化）などを継続して把握することのできる調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校第4学年から中学校第3学年までの同一児童生徒を継続して調査し、学力の伸びを把握 ・ PISA（国際学力到達度調査）と同様の調査手法（項目反応理論）を採用 <p>非認知能力・学習方略を測定することのできる調査</p>												

埼玉県学力・学習状況調査の特長（非認知能力や学習方略）

非認知能力

○認知能力…いわゆる学力であり、たし算、漢字の読み書き、文章題、図形の把握などができる力

○非認知能力…認知能力ではない能力全般

自制心	イライラしない、心の平穏を保てる など
自己効力感	自分への自信、自己肯定力 など
勤勉性	やるべきことをきちんとやる など
やりぬく力	粘り強い、根気がある など
向社会性	他者を助けようとする など

※埼玉県学力・学習状況調査で測っている非認知能力

学習方略

○学習方略…学習の効果を高めるために子供が意図的に行う活動

柔軟的方略

学習の仕方を自分の状況に合わせて柔軟に変更していく活動

＜例＞ 勉強の順番を変える、分からないところを重点的に学習する など

プランニング方略

計画的に学習に取り組む活動

＜例＞ 勉強を始める前に計画を立てる など

作業方略

ノートに書く、声に出すといった、「作業」を中心に学習を進める活動

＜例＞ 大切なところを繰り返し書く など

認知的方略

より自分の理解度を深めるような学習活動

＜例＞ 勉強した内容を自分の言葉で理解する など

努力調整方略

「苦手」などの感情をコントロールして学習への動機を高める活動

＜例＞ わからないところもあきらめずに継続して学習する など

※埼玉県学力・学習状況調査で測っている学習方略

調査結果① 「学力のレベル」の経年変化

国語

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
現中3	16	17	20	22	23	24
現中2	15	18	20	22	23	
現中1	17	18	21	22		
現小6	18	18	20			
現小5	16	19				
現小4	16					

縦に見ることで、どの学年も
ほぼ同様のレベルに達している
ことが分かる。

⇒ 今年度の数値

算数・数学

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
現中3	14	17	18	20	22	24
現中2	14	16	19	20	22	
現中1	14	17	18	19		
現小6	15	16	17			
現小5	14	16				
現小4	13					

横に見ることで、毎年度どの
学年も着実に学力が伸びている
ことが分かる。

⇒ 今年度の数値

英語

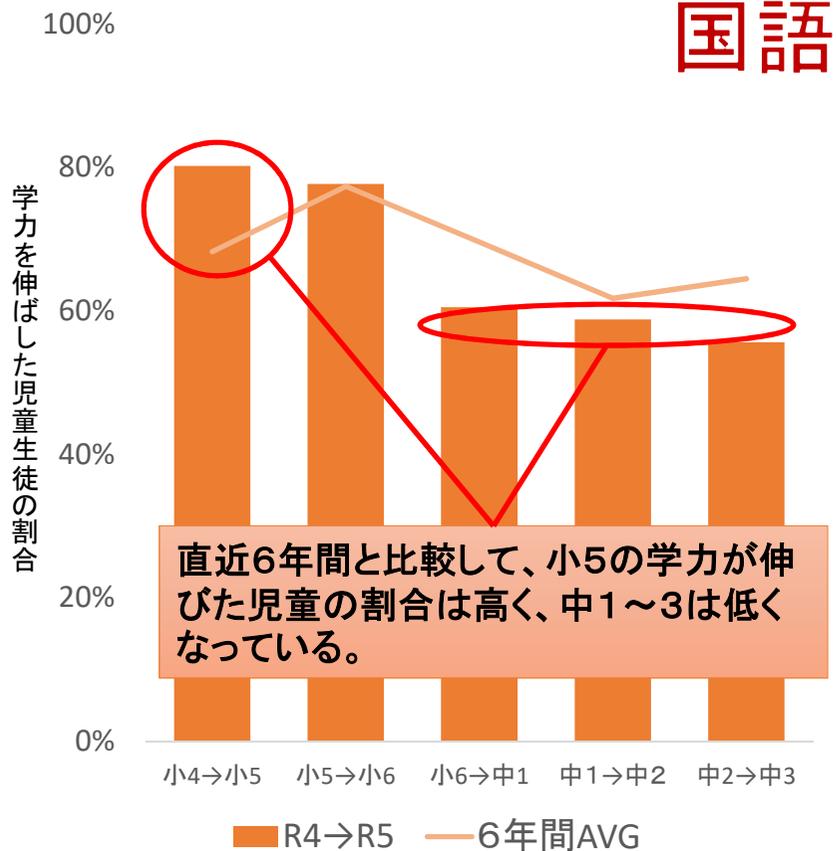
学年	中2	中3
現中3	26	28
現中2	25	
現中1		
現小6		
現小5		
現小4		

⇒ 今年度の数値

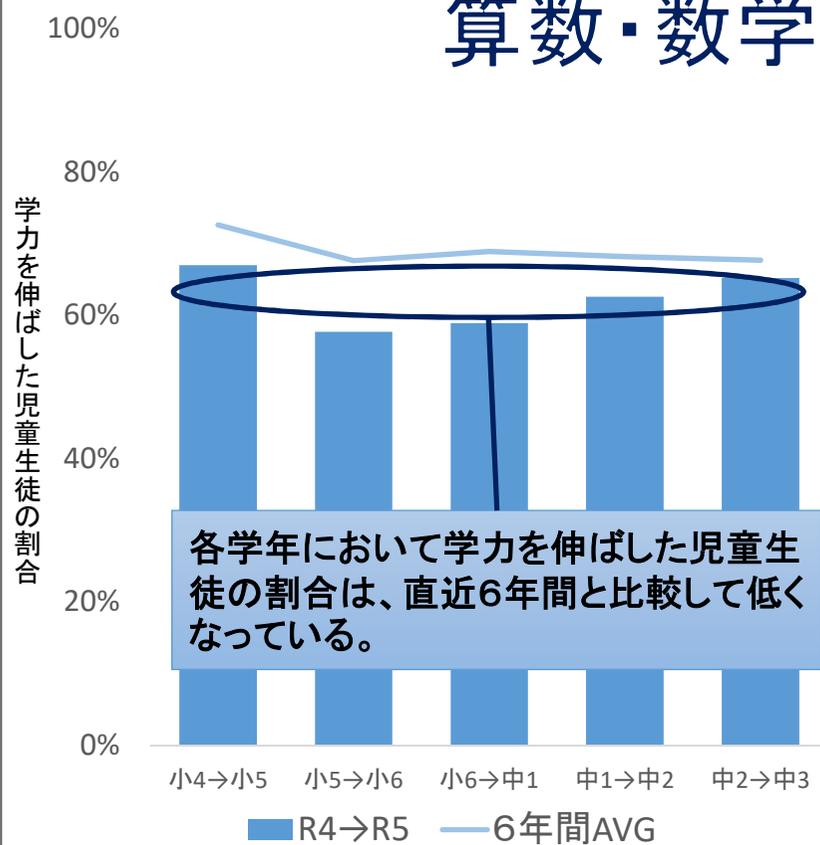
- ※ 小4～中3で「学力のレベル」は、36段階で設定している。
- ※ 表の数字は各学年の「学力のレベルの平均値」を表している。

調査結果② 学力を伸ばした児童生徒の割合（直近6年間との比較）

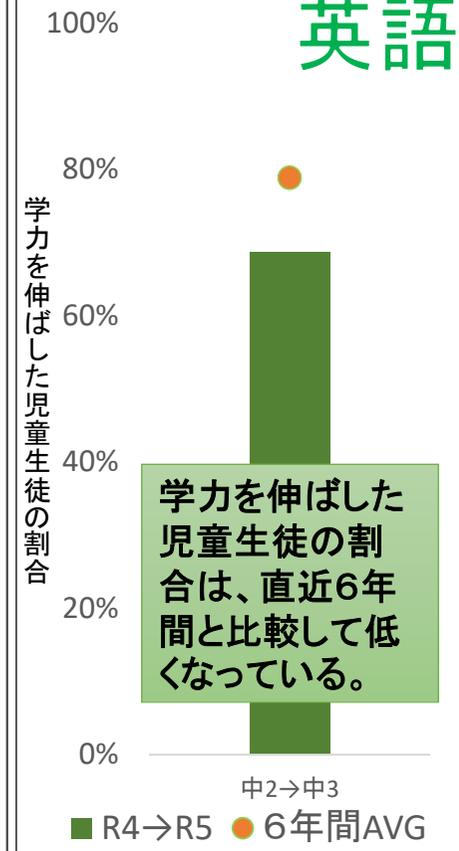
国語



算数・数学



英語



分析結果① 非認知能力（自己効力感）と学力

自分でも
解けるはずだ！

自己効力感
向上



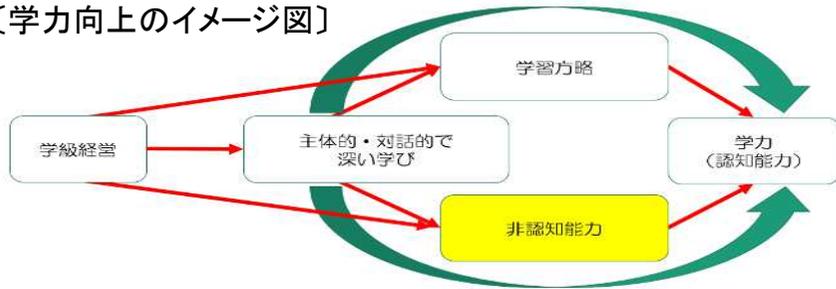
学力の伸び



過去の分析で検証済
正の相関あり

自己効力感が高い児童生徒
×
高い学力（国語・算数数学・英語）

〔学力向上のイメージ図〕



平成28年度～令和元年度データ活用事業成果より

- ・「学級経営」がよいほど、「主体的・対話的で深い学び」が実現しやすい。
- ・「学級経営」がよいほど、「非認知能力」「学習方略」を伸ばす。
- ・主体的・対話的で深い学びは、子供たちの「非認知能力」や「学習方略」の向上を通じて、学力を向上させる。

R5 New
正の相関あり

自己効力感を伸ばしている児童生徒
×
学力の「伸び」

R5 New
正の相関あり

自己効力感を伸ばしている児童生徒
×
学習方略・他の非認知能力の向上

分析結果② 自分にはよいところがあると思う児童生徒と学力の伸び

自分には
よいところがある！

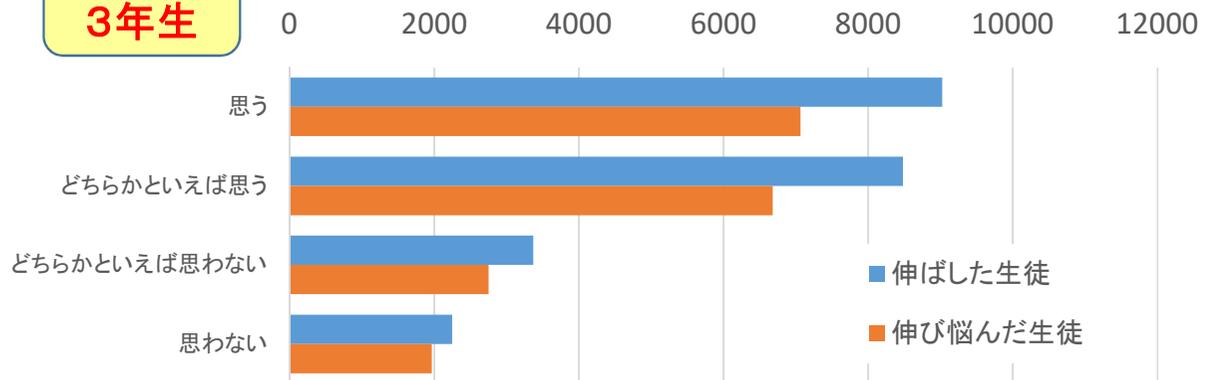


学力の伸び

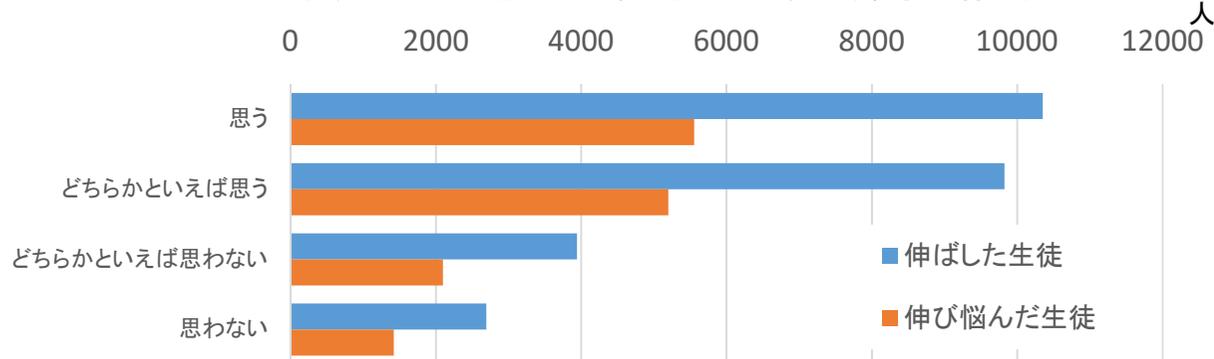


中学校
3年生

自分にはよいところがあると思いますか(国語の伸び) 人



自分にはよいところがあると思いますか(数学の伸び) 人



自分にはよいところがある「ある」
と思う児童生徒

×

学力の「伸び」

R5 New
正の相関あり

【参考】 全国学力・学習状況調査の結果

○ 児童生徒質問紙

全国と比べて、児童生徒のよいところを認め、伸ばす取組が進んでいる。

※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答を合わせた値 (単位：%)

質問事項	小学校		中学校	
	埼玉県	全国	埼玉県	全国
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	91.5	89.8	90.5	87.3
自分には、よいところがあると思いますか	84.1	83.5	80.6	80.0

○ 学校質問紙

全国と県の学力調査結果を併せて分析し、教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていると回答した学校の割合が全国に比べ高い。

※「よく行っている」「どちらかといえば行っている」と回答した値 (単位：%)

質問事項	小学校		中学校	
	埼玉県	全国	埼玉県	全国
全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	95.0	92.2	92.0	88.1

調査結果を活用した県の学力向上施策

埼玉県

総合的な支援

- ・全ての小・中学校、児童生徒への支援
- ・各市町村・学校における取組共有の促進
- ・調査データの分析結果の普及
- ・効果的な取組を県内で広く共有

重点的な支援

- ・特に支援が必要な市町村・学校への対応
- ・特に学習のつまずきが見られる学年・教科等への対応
- ・各市町村・学校の実態に応じた課題に対する支援

市町村

学校



児童生徒一人一人の学力向上

主な施策名

優れた指導技術の
共有・普及

AIを活用した
学びの実践研究事業

非認知能力育成実証研究

県学調結果の分析や
効果的な活用のための支援

主な施策名

「未来を生き抜く人財育成」
学力保障スクラム事業

県学調結果に基づく
市町村や学校に対する支援

学力向上研究校指定事業

学力向上プロジェクト教員の
配置

調査結果を活用した学力向上施策（非認知能力育成実証研究）

目的

学力向上に相関関係のある非認知能力の向上について、県と研究機関が協働し、効果的な取組・指導を見出す。
（自己効力感、向社会性への効果）

非認知能力の重要性について

○学力と非認知能力の関係

高い学力 × 高い非認知能力
＜正の相関関係＞

研究内容

①「こころあっぷタイム」プログラム(全12回)

(同志社大学:石川信一教授)

◇認知行動療法の手法

- ・マンガを用いたワークシート教材 × 体験活動(グループワーク)中心のプログラム
- ・アイテムを使った説明 ⇒覚えやすく楽しく学べる工夫
- ・認知行動療法の手法を取り入れた構成 ⇒手法を学んだ学級担任が実施



②アンケート（児童）

6月・3月・次年度の3回実施(1回10～15分)

◇質問内容

[自己効力感、総合的困難、向社会性]

②アンケート（教員）

◇質問内容

[使用感、改善案 等]



実証研究校



- ・対象市町村及び学校:5市町・25校
- ・対象教員:小学校4～6年の学級担任(学年単位)

先行検証…自己効力感、総合的困難(イライラ・不安)等 によい影響

埼玉県学力・学習状況調査のC B T化

※C B T…Computer Based Testingの略で、コンピューターを使用して実施する調査。

○令和6年度は全面C B T化※を目指す ※県内の全ての市町村(さいたま市除く)

【主なメリット】 ◎正誤の状況に加えて解答時間等が明らかになる。
◎より実際の学習場面に即した出題が可能となる。

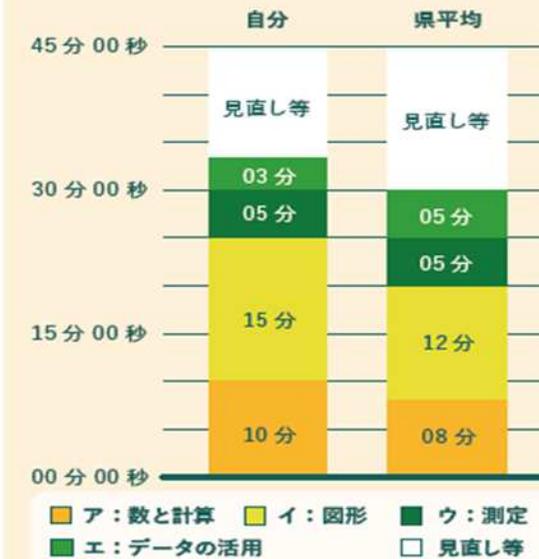
得意・不得意な領域等を把握

県平均と比べて時間をかけた問題

領域等	数と計算				
問題概要	小数と整数のたし算をする				
見直し回数	7	正誤	正	県正答率	45.2%
かけた時間	5分12秒		かけた時間 県平均	2分45秒	

領域等	データの活用				
問題概要	棒グラフから時間を求める				
見直し回数	2	正誤	誤	県正答率	35.4%
かけた時間	2分48秒		かけた時間 県平均	1分58秒	

領域等別のかけた時間



動画で出題した事例(4年生算数)

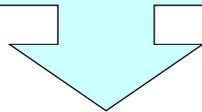
問 点ア・イ・ウを結んでできる三角形はどのような三角形ですか。

算数

問1 下の動画を見て、問題に答えましょう。

【資料】埼玉県学力・学習状況調査の特長①（学力の伸びを測る）

※ 本調査では、学力を「学力のレベル」として提示している。
 → 小学校第4学年から中学校第3学年までの全ての問題に
 難易度を設定することで、学力のレベルを測定している。



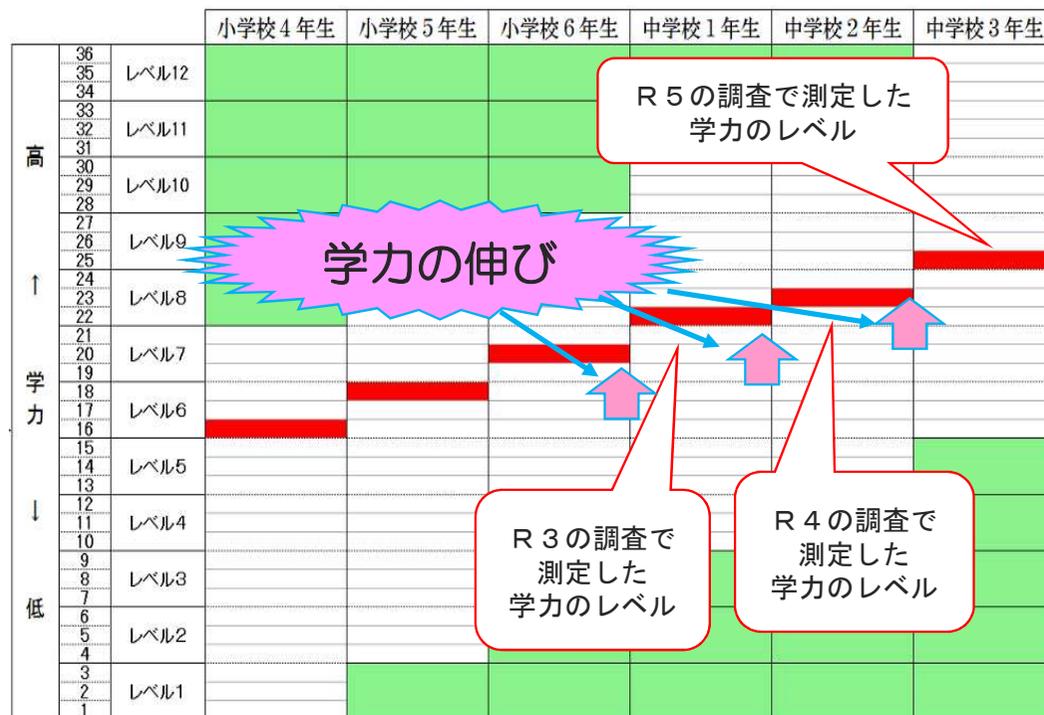
○ 本調査における「学力のレベル」の考え方

- ・ 「どのくらい難しい問題を解く力があるか。」を学力のレベルで表している。レベルが上がるほど、難易度の高い問題を解く力がある。

○ 本調査における「学力の伸び」の考え方

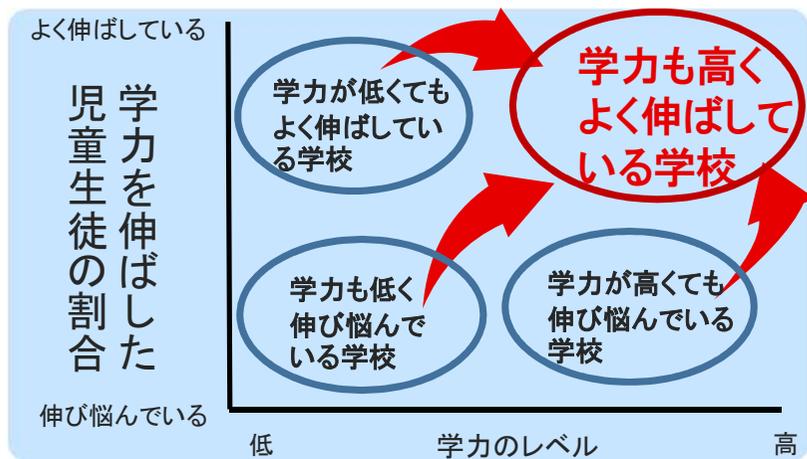
- ・ 年度間の「学力のレベルの差」を学力の伸びと捉える。

○ 学力のレベルは、36段階（12レベル×3層）で設定している。



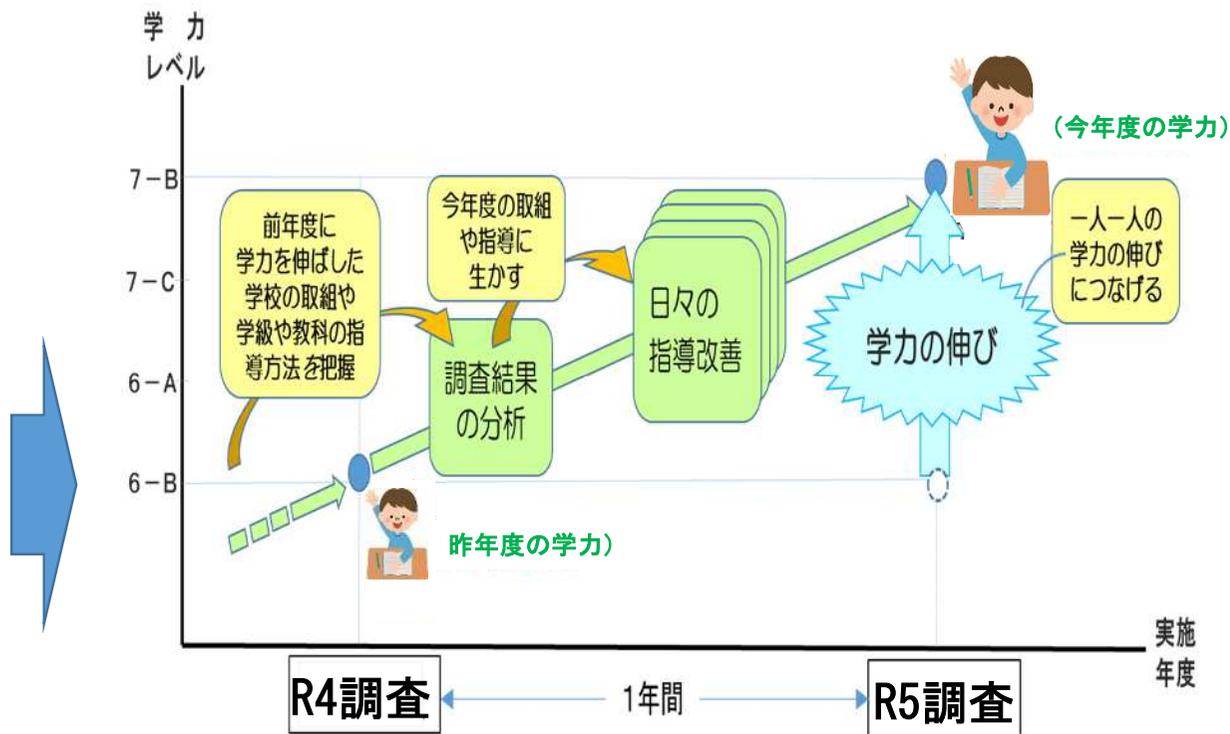
【資料】埼玉県学力・学習状況調査の特長②（よい取組・指導法を共有）

・学力をよく伸ばしている学校が分かる



・学力をよく伸ばしている学級や教科が分かる

前年度のクラス	「学力を伸ばした児童」の割合	
	国語	算数
5-1	73.4%	96.5%
5-2	91.8%	75.1%



○ データに基づく学校・教員の授業改善PDCAサイクルの確立